

1945年の夏を語りつぐ会 朗読公演

命をつなぐ

生きて 歩いて・・・

2013. 8. 24 (土) 14:00～ (開場13:30)

18:00～ (開場17:30)

岡山天神山文化プラザホール

おとなになれなかった弟たちに・・・

岡山空襲

ヒロシマ

十ガサキ 八月九日

黙祷

おとな 1000円

高校生以下 500円

 福武教育文化振興財団助成
後援 岡山県教育委員会 岡山市教育委員会
問い合わせ先 090-6436-9820 (川上)

命をつなぐ 生きて 歩いて・・・

『おとなになれなかった弟たちに』

「母が、大きくなっていったんだね、とヒロユキのひざをまげて棺に入れました。」

俳優 米倉斉加年氏の実話。自身の16枚の絵も描かれている34ページの絵本。

(1983年・偕成社)

三村	藤原	友次田	白髭	太田	宇田	市川	石田	赤井	朗読
洋子	庸雅	鶴子	守也	絹子	由美子	梨恵	節子	藤子	

『原爆詩集 八月』

詩人 峠三吉、原民喜、栗原貞子らの作品とともに、命をとりとめながら、家族や友人を失った子どもたちが平和への願いをこめて書いた詩150余編を掲載。

(2008年・合同出版)

『娘よ、ここが長崎です』

長崎原爆で重症を負いながら援護活動を行い、「長崎の鐘」「この子を残して」の著書もある永井隆博士の娘、筒井茅乃が、自身の体験を物語化した作品。

(1985年・くもん出版)

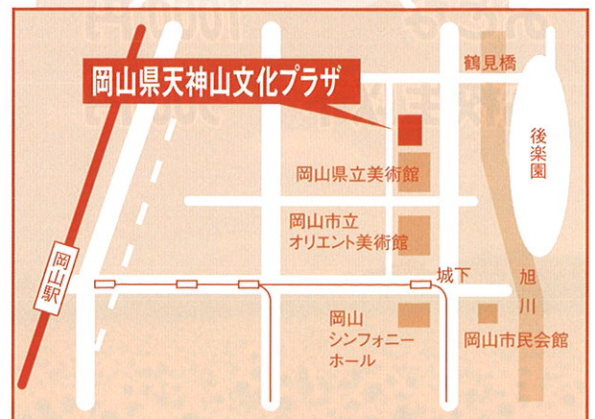
構成・演出
川上知子
音響
浅野正己
照明
スペース・アート

〈会場〉

— 1945年の夏を語りつぐ会の歩み —

1989年「この子たちの夏 1945 ヒロシマ・ナガサキ」上演実行委員会として発足。「この子たちの夏」「ぼく生きたかった」「あの日私は」「さようならが言える日」「りゅうりえんれんを知っていますか」「もっと生きていたかった—子どもたちの伝言—」「流れる星は生きている」「朗読でつづる6・29岡山空襲」「アンネ・フランクを知っていますか」等上演。

一貫して愛・命・平和の尊さを語り伝えている。



岡山市北区天神町8-54 ☎086-226-5005